

1. 概要

- 国土: 16万3610km²(日本の約5分の2)、
- 人口: 約1,033万人(2008年)
- 首都: チュニス(人口約120万人、首都圏の人口は約400万人)



チュニジアの主な河川

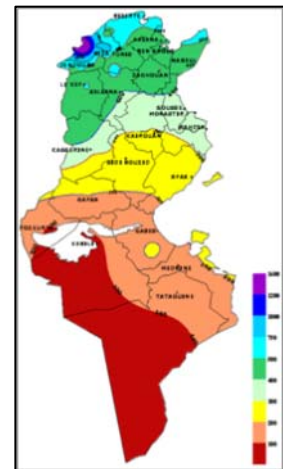


2. 特徴

- 地理・気候
 - 北部は山間部で、夏季は高温・乾燥、冬季は温暖・多雨
 - 中央平野部は高温・乾燥、南部は半乾燥性でサハラ砂漠に続く
 - 年間平均降水量は207mm(日本の平均は約1,700mm)
 - 地中海生気候の北部では年平均降水量が1,500mm以上となる地域があるのに対し、サハラ気候の南部では100mmを下回る地域もある
- 経済情勢
 - 第11次経済社会開発5ヶ年計画(2007-2011年)では、開放的な市場、生産性の向上、高い失業率で問題となっている高学歴社会への取組み、新規雇用の創出等を通じ、年率6.1%の経済成長の達成を目指す等、高い数値目標を掲げている
- 水資源
 - 水資源の多くは塩分濃度が高いため、利用可能な水資源のほとんどは北部に限られている
 - 主な河川としては、Medjerda川、Nebhana川、Merguillil川などがある
- 水利用
 - 農業用水に約82%、水道用水に約13.8%、工業用水に約4%
 - 地下水が重要な水資源となっており、取水量のおよそ7割は地下水より取水
 - 塩分濃度が高い地下水の処理を行うため、主に生活用水のために海水淡水化システムを導入



チュニジアの地図



チュニジアにおける降水量の分布状況

チュニジアの水に関する主な動き

3. 上下水道事業

- 上水道
 - 給水人口は758万人であり、全人口の約76%が上水道による給水サービスを受けている
 - 無収水率は比較的低く22.4%
- 下水道
 - 人口の約55%が接続されており、収集された下水のうち75%が二次処理まで実施されている

4. 水に関する行政機関

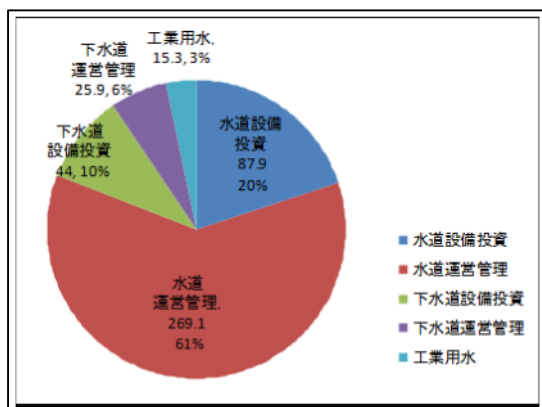
- 農業・水資源・漁業省
 - 農業開発を優先事業とし、保有農地の保護、生産要素の保護およびその支援を目的として、利用可能なすべての天然資源の流通を確保し、基本的な全インフラ事業を実行する責任を担う
- 環境・持続的開発省
 - 環境保護、自然保護および生活の質の向上に関する分野における政府の一般政策の提案

5. 水に関する政策

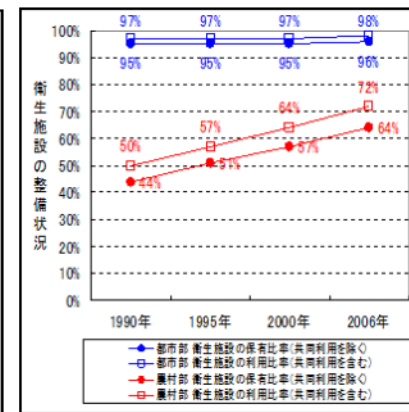
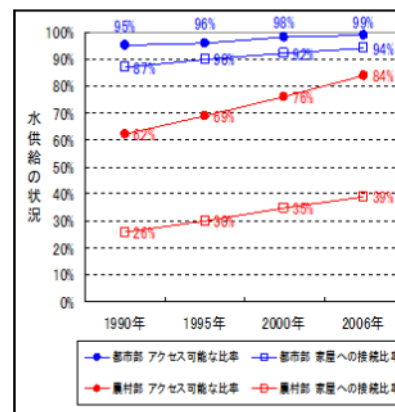
- EAU 2000
 - 限りある水資源を有効に貯留し配分する為の構造物を建設することが主な目的
 - 開発可能水資源量の95%が利用可能になる見込み
- EAU XXI
 - 2030年を目標年次とした長期的水資源政策計画
 - 水資源の有効利用と施設の適切な管理に重点

6. 課題とニーズ

- 総合水資源管理
 - 原水が少なく、殆どが北部に集中しているので流域間導水等も必要
- 造水・下水再生
 - 海水淡水化プラントの建設が急速に進んでおり、今後もニーズは高まっていく
- 上下水道施設の整備および運営管理
 - 民間企業の参入も促進されている



水市場規模



水供給の状況と衛生施設の整備状況